

1. 防災士とは

◎防災士とは

防災士とは、社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、かつそのために十分な意識・知識・技能を有するものとして、NPO法人日本防災士機構が認定した人たちです。

◎防災士の役割は

防災士は、家庭・職場・地域の様々な場で多様な活動が期待され、その役割は、大きく分けて3つあります。

- ①災害時には消防、自衛隊等の公的支援が到着するまでの間の被害の拡大を軽減するために、初期消火、救出救助、避難誘導等を効果的にを行います。
- ②被災地において、自治体など公的組織や災害ボランティアと協働して、避難所運営をはじめとする被災者支援のために活動する。
- ③平時においては防災意識の啓発に当たるほか、大災害に備えて自助・共助活動等の訓練や、防災と救助等の技術の錬磨などに取り組んだり、時には防災・救助計画、企業の事業継続計画(BCP)の立案等にも参画します。

◎防災士の数は

平成15年から防災士養成研修と資格取得試験が始まりました。平成19年新潟県中越沖地震など、最近の内外での災害が多発していることを反映して関心が高まり受験者が急増して、防災士資格取得者は20年2月現在22,218名となっております。

◎企業・団体における防災士への取り組みは

企業や団体の防災計画の基本は、①社員と顧客の安全確保、②事業活動の維持と社会経済の安定、③地域防災活動(地域社会)への貢献の3つであり、そのために防災担当者の育成やレベル向上、社員の防災意識の向上に取り組んでおり、防災士への社会的評価と期待が高まってきております。

防災士は個人が取得する民間資格ですが、組織的にまとまって取り組んでいる例が増えつつあり、企業・団体では防災担当のみならず、多くの関係者が防災士の資格を取得する傾向が見られるようになりました。

◎自治体における取り組みは

全国の自治体で、いま防災士養成のための積極的な取り組みが続々と進められ、また防災士養成事業までは至っていないが、防災士資格取得者に助成金を給付したり、自治体の所管地域在住防災士に防災活動協力を呼びかけるなどして、防災士が地域の自主防災組織の中核となって活躍している例が多数みられるようになりました。

<参考>

地震！そのときどうする→まず、わが身の安全確保

◎教室・自宅で

立ってられる程度の揺れなら屋外より安全です。慌てて外に飛び出さないで、机やテーブルなどの下に入って身を守ります。机やテーブルの脚を持てば、揺れによる移動が防げます。座布団や衣類で頭部を保護し、倒れやすい家具等から離れて。割れたガラス類でケガをすることがありますので、はだして歩かないようにしましょう。まず履き物の確保を。トイレや鉄筋住宅の中にいた場合、戸や窓を開けて避難経路を確保しておきましょう。

◎路上で

かばんや衣類で頭を保護しましょう。落下するガラス片や看板などに注意して近くのビルに避難して様子を見ます。ブロック塀、屋根瓦、自動販売機、電柱なども危険。できるだけ離れましょう。

◎地下街・デパート・劇場で

パニックを起こしがちな場所ですが、出口に殺到した場合、大規模な二次災害の恐れもあります。冷静に行動しましょう。まず、衣類などで頭を保護し、壁面や丈夫な柱に身を寄せます。ショーウィンドーや背の高い陳列棚など転倒の危険があるところからは早く離れましょう。

劇場ではいすの間に身をひそめます。舞台装置類の落下の恐れのある舞台近くの席は危険なので近寄らないこと。

地下街で火災が発生した場合には、ハンカチで鼻をふさぎ低い姿勢になって壁伝いに避難します。いずれも館内放送や係員の誘導があればそれに従いますが、停電などで放送ができない場合もあります。落ち着いて状況を確認しましょう。

◎バス・電車・地下鉄内で

急停車の衝撃に備えて、つり革や支柱などにつかまります。座っている場合は、頭をバッグなどで保護し、低い姿勢をとりましょう。社内放送の情報を聞き、乗務員の指示に従って行動します。電車から出る場合、切れた架線に触れないように注意しましょう。地下鉄駅間で地震が発生した場合、原則として副都心野駅まで進むので、駅員らの指示や誘導に従って行動します。

◎運転中の自動車で

走行中、強風やパンクでもないのに、大きくハンドルをとられたら、地震が起きたと考えましょう。周囲の車の動きに注意しながら道路左側に停車、カーラジオで情報を得て当面の安全が確認できるまで待機します。付近で建物が倒壊したり、火災が起きたり、道路が寸断される事態なら、車を捨てて徒歩で避難する決断を。避難する場合は交差点を避け、エンジンを切って窓を閉め、ドアロックはせず、キーをつけたままにします。